

令和7年度特別支援教育（知的障がい、自閉症・情緒障がい等）

新担当教員実地研修会 あいさつ

本日の研修に参加する 14名の新担当教員の皆様、運営に関わる下北教育事務所の先生方、ようこそむつ養護学校においでくださいました。本校児童生徒84名、教職員70名を代表して、心より歓迎いたします。

青森県特別支援教育研究会会議出席のため、文面でのご挨拶となり心苦しいのですが、一言ご挨拶申し上げます。

本日は授業参観や講義のほか、研究協議も設定されているとのことですので、むつ下北地域の特別支援教育を担う仲間同士、どうぞ有意義な研修の一日を本校で過ごしていただければと思います。

さて、みなさんは「専門性」という言葉を聞いて何を思い浮かべるでしょうか。経験や知識でしょうか、指導力や授業力でしょうか。

特別支援教育に限らず、教育に携わる者として、何よりもはじめに求められる専門性は、出会ったこども達の思いや願いに共感すること、その上で、その子にとって今必要な力が何であるかがわかること、だと考えます。

授業参観では、本校の先生方が、「今、こども達に必要な力」を育てるための授業を行っていますので、その観点でも参観いただき、午後の講義を通して、感じたことや考えたことを言語化していただきたいと思います。

目の前の、多様な姿を見せるこども達の育ちを支えるには、私たちの連携が欠かせません。大人同士の「つながる力」は、特に特別支援教育では重要な専門性の一つです。研究協議では、こどもの姿を中心に多くの言葉を交わし、明日からの力としていただきたいです。

今日のこの貴重な一日を、先生方お一人お一人の、日々の実践の基盤づくりに役立てていただきたいと思っております。

本日は、よろしくお願いいたします。

（むつ養護学校 道合修子）